

子どもたちの防災意識を高める必要性は高まっています。ぼうさい探検隊の取組みを通じて防災の観点から自分のまちをより理解することができますし、取組みツールやマニュアルも無償でご提供しますので、ぜひご応募ください。」

昨年は札幌市南区の川沿少年消防クラブ・みなみっくマ調査隊が「わがまち再発見賞」を受賞しました。今年のぼうさい探検隊マップコンクールの応募〆切は、11月8日(水)となっています。

[\(http://www.sonpo.or.jp/efforts/reduction/bousai/\)](http://www.sonpo.or.jp/efforts/reduction/bousai/)

■ ついに完成「北海D○防災かるた」！

先月号で紹介しました「北海D○防災かるた」。ほっかいどう防災教育協働ネットワーク内で検討を重ね、ついに完成となりました。3月29日に恵庭市で実施した体験会では、子ども達が熱心にかるた遊びを楽しんだあと、かるたの文と画の意味合いを学ぶことにより、防災の知識を深めていく様子が周囲にもよくわかり、北海道全体に広く普及することで大きな効果が生まれる教材と実感しました。ネットワークの皆様の幅広い協力によりできあがった教材ですので、是非道内各地への普及に皆様のご協力をお願いいたします。

一個1,200円(税別)で、日本気象協会北海道支社より販売しています。購入は日本気象協会北海道支社へ電話(011-622-2230)もしくはフェイスブックをご覧ください。

[\(https://www.facebook.com/jwanews.hokkaido/\)](https://www.facebook.com/jwanews.hokkaido/)

【2】 日本全国！ぼうさいの取組紹介！

こちらでは、全国の防災取組事例をご紹介します。今月は「災害伝承」の取り組みです。

■ <津波アーカイブ>防災教育へHP公開【岩手県】

岩手県では、東日本大震災の被災状況や復興の過程を記録した写真、文書、新聞記事といった資料約24万点をデータベース化したウェブサイト「いわて震災津波アーカイブ～希望～」の公開を始めました。

岩手県内市町村と、警察、自衛隊、NPOなど団体の協力を得て、被災直後の避難所や学校の写真、県災害対策本部の行政資料、被災者の体験談をつづった文書などを収録し、被害状況を記録した「そなえ」など6テーマに分類。各テーマの資料は、震災直後から時間の経過とともに並べてあり、被災地の復興の推移や自治体対応の流れを把握できます。

県内の学校で実践している防災教育の事例集、被災自治体による震災記録誌や検証報告書などのコンテンツもあり、県内外の自治体の防災計画や震災教育に活用することができます。

[\(http://iwate-archive.pref.iwate.jp/\)](http://iwate-archive.pref.iwate.jp/)

【3】 ネットワークへようこそ！

こちらでは、ネットワークメンバーの横顔をご紹介。今回は防災士であり NPO フューチャー北海道で活躍している【櫻木正彦】さんです！（今回はインタビュー形式にしてみました。）

〈防災に目覚めたきっかけ〉はなんですか？

建設コンサルタントとして、河川区域の施設設計、生態系調査など携わる中、河川災害を目の当たりにしてきました。河川は全ての生き物にとって重要な場所であると共に、とても危険な場所でもあります。そんな河川のことを地域の人達に伝えたいその想いのひとつが「防災」でした。

〈どのような防災活動に取り組まれていますか〉

伝えるだけではなく、共に考える場を作りたい。防災は特別な知識ではなく生活の仕組みの中に少しだけ意識するだけで良いと考えています。活動では、「みんなで自分達の生活を一緒に考える」そんな想いで防災を伝える場を作っています。

最近よくやるのは Do はぐなどゲームを使った「楽しく考える防災」。「楽しい」って、不謹慎と言われるでしょうが、とても重要な事なので、楽しく・解りやすく伝えたいですね。

〈ほっかいどう防災教育協働ネットワークでどのようなことを行っていきたいですか？〉

地域に重大な被害をもたらすのが災害ですが、滅多に起こらないのも災害です。昨年の台風災害も、記憶は薄れていっています。

記憶を風化させないよう、備えを忘れないよう伝えていかななくてはならないと思っています。直接住民と話すだけでは足りない、人々の生活に関わっている団体や組織とも連携して行く必要があると感じています。

【4】 編集後記

4月から、新たなメンバーを迎えておられる方も多いかと思います。本ネットワーク事務局も新体制となりました。今年度もよろしくお願いたします。

熊本地震から1年がたちました。先日、映画「うつくしいひと」で、スクリーンに映る震災前の熊本城を見て、3年前に訪れた時の風景を思い出しました。熊本の方にとって「

熊本城」は、地域のプライドと聞きます。お城のライトアップを見るために顔を上げるのが、前向きな気持ちにつながっているとのこと。

避難生活においては、体力はもちろん、気力の維持が重要です。そのために何が必要かあらためて考えさせられました。日頃から防災意識を高め、「自助・共助」の力を向上させるためにも、熊本地震での教訓に学び、今後につなげていきたいと思います。〈K〉

発行：ほっかいどう防災教育協働ネットワーク事務局

(北海道総務部危機対策局危機対策課)

- ・最新情報発信中！フェイスブック「ほっかいどうの防災教育」

<https://www.facebook.com/hokkaido.bousaikyouiku>

- ・ポータルサイト「ほっかいどうの防災教育」

<http://kyouiku.bousai-hokkaido.jp>